宮城信雄会長再選、新執行部誕生

―第196回沖縄県医師会臨時代議員会―

常任理事　真栄田　篤彦

去る2月16日（木）午後7時30分から本会館において標記代議員会が開催された。

はじめに、代議員会の正副議長の任期が去る1月末日をもって満了したため、仮議長に野原俊一代議員が選出された。野原仮議長より定数の確認が行われ、定数58名に対し、51名が出席し、定款34条に定める過半数に達しており、本代議員会は有効に成立する旨宣言された。続いて議長選出が行われ、新垣善一代議員（中部地区）が選出されると共に、新垣議長の下で副議長の選出が行われ、副議長に長嶺信夫代議員（那覇）が選出された。

その後、議長より議事録署名人として久田友一郎代議員、山城千秋代議員が指名され、早速選挙に入った。選挙は本会役員・裁定委員、日医代議員・同予備代議員いずれも定数内の候補者で、投票によらず選出された。

以上新役員等の選出の後、宮城会長より下記のとおり所信表明があった。

また、顧問委嘱の件について議事が行われ、引き続き、宜保好彦先生、花城清喬先生、比嘉国郎先生、桑江朝彦先生、稲冨洋明先生に委嘱することが承認された。

なお、選出された本会役員・裁定委員、日医代議員・同予備代議員は4頁のとおり。

宮城信雄会長所信表明

次期執行部に選出していただきありがとうございます。

私は平成18年の一期目より「地域に根ざした活力ある医師会」を掲げ、これまで、地区医師会と県医師会が連携を保ちながら沖縄の医療を良くしていくことを目指してまいりました。

これまで、定期的に地区医師会長会議を開催し各地区医師会における諸問題について検討・解決を図って参りました。

また、仲井眞弘多氏の後援会長として仲井眞県知事誕生を実現させると共に、医療行政に対してより良い提言が出来るよう、政策参与の新設を実現させました。

平成20年11月には会員の念願であった県医師会館が竣工しており、以降、当会館を基軸とした会員の学術活動、組織作りを進めてまいりました。昨年1年間における会館利用は350回を超えており、今後も更なる活発な活動が展開されるものと期待しております。

一方、現在沖縄県振興審議会において、2030年の沖縄県の将来像を描く長期構想として「沖縄21世紀ビジョン」が取りまとめられており、我々執行部からも委員として参加し、県民の保健医療福祉の向上が図られるよう提言を行いました。

また、他県に比べ比較的医師確保に成功している沖縄県でも、初期研修に応募する医師や後期研修医が除々に減ってきている状況になってきております。このような問題解決を図る一つの策として、本年4月より「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」が運営開始されます。

同センターは国の財政支援を得て、琉球大学、沖縄県、沖縄県医師会の共同プロジェクトとして設立されるもので、同センターの設置により県下の医療系学生および医療者を対象としたシミュレーション教育のプログラム開発・実践・研究を行い、シミュレーション教育の普及をめざしております。

さらに将来的には、県外の学生や医療者、アジア各国からの研修生などを受入れ、海外施設との連携などを図りながら、我が国でも有数のセンターを目指しております。

また、これに合わせ県外の主要都市で開催される医学生や研修医を対象とした合同説明会に県内15研修病院と共に参加し、本県における臨床研修医の確保につなげていきたいと考えております。

更に、国が進める地域医療再生計画における補助事業である「地域医療連携体制総合調整事業」の展開を図ります。この事業の目的は、生活習慣病である脳卒中、糖尿病等それぞれの疾患における地域連携クリティカルパスを構築し、医療機関が機能分化を図りながら、住民にとって切れ目のない医療を提供することにあり、今後も同事業の推進に力を入れて参りたいと思います。これは、一つの医療機関で全てのことをやるということではなく、地域の医療機関がお互い連携をしながら、医療の完結を図るという、そのツールの一つになるということを期待しております。

先ほども申し上げましたが、本会は4月1日より一般社団法人沖縄県医師会として新たな活動を展開いたします。

沖縄県医師会の一層の活性化と連携強化を図ると共に、本県の保健・医療・福祉の向上発展のため、事業を展開して参る所存でありますので、今後ともご支援・ご協力を賜りますようお願いいたしまして、簡単ではありますが、所信表明とさせていただきます。ありがとうございました。

沖　縄　県　医　師　会

会　長
宮城信雄

副会長
玉城信光

副会長
安里哲好

理　事
真栄田篤彦

理　事
稲田隆司

理　事
金城忠雄

理　事
宮里善次

理　事
佐久本嗣夫

理　事
本竹秀光

理　事
村山貞之

理　事
照屋　勉

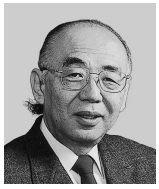
理　事
石川清和

理　事
玉井　修

理　事
比嘉　靖

理　事
平安　明

監　事
山里将進


監　事
喜久村徳清

監　事
名嘉恒守

沖縄県医師会新役員

役職名	氏　名	
会　長	宮城信雄	再
副会長	玉城信光	〃
〃	安里哲好	新
理　事	真栄田篤彦	再
〃	稲田隆司	〃
〃	金城忠雄	〃
〃	宮里善次	〃
〃	佐久本嗣夫	〃
〃	本竹秀光	新
〃	村山貞之	再
〃	照屋勉	〃
〃	石川清和	新
〃	玉井修	再
〃	比嘉靖	新
〃	平安明	再
監　事	山里将進	新
〃	喜久村徳清	〃
〃	名嘉恒守	再

沖縄県医師会裁定委員

役職名	氏　名	
裁定委員	当真嗣勇	再
〃	喜屋武郁夫	〃
〃	長嶺安哉	〃
〃	仲地紀正	〃
〃	大田守弥	〃
〃	藤田次郎	新
〃	仲本晴男	再

○任期：平成24年4月1日から平成25年6月下旬開催予定の定例代議員会開催日迄（新公益法人制度改革に伴うもの）

日本医師会代議員・同予備代議員

日医代議員	宮城信雄	再
〃	玉城信光	〃
〃	安里哲好	〃
〃	真栄田篤彦	〃
予備代議員	稲田隆司	再
〃	金城忠雄	〃
〃	宮里善次	〃
〃	本竹秀光	新

○任期：平成24年4月1日から平成26年3月31迄。
　なお、日本医師会は、平成25年4月1日の新法人への移行認定を目指しており、新法人へ移行した時点で、新たな任期の規定が適用されることになり、平成26年6月下旬開催の日本医師会定例代議員会開催日の前日迄となる。

会長就任にあたり

会長　宮城　信雄

去る2月16日開催の第196回沖縄県医師会臨時代議員会にて引き続き沖縄県医師会長として選出して頂きました。稲冨会長の「信頼される医師会」を引き継ぎ3期6年間「地域に根差した活力ある医師会」を基本目標に掲げて会務を遂行してきましたが、さらに地域医療の充実発展をキーワードにレベルアップを図って行きたいと思います。

新臨床研修制度で沖縄を初期研修の地に選んでくれる研修生は各臨床研修病院群の努力もあり他の地域に比べて多い方ですが、最近希望者が減少してきています。二年間の研修終了後に他府県に移動する研修医2～3割と相変わらず多く、出来るだけ多くの研修医に沖縄での専門研修にいかに残ってもらうかが課題になっております。いかに三つの臨床研修病院群（琉球大医学部を中心とするRyuMICグループ、中部病院を中心とするグループ、民間病院の群星沖縄）で統一のプログラムを作成し自由に交流できるかが鍵になると考えております。国の地域医療再生基金を活用した4月から琉大医学部内で運用が開始される「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」が大きな役割を果たすものと期待されます。設立当初より沖縄県医師会が関ってきましたが、運用についても今まで以上に協力・共同が必要とされています。

地域医療連携体制総合調整事業の脳卒中、糖尿病の地域医療クリティカルパスの運用を開始し医療機関の機能分化を図りながら地域住民に一貫した医療が提供出来るように取り組んで行きます。これからの医療は一つの病院ですべての医療を完結するのではなく地域でそれぞれの医療機能を生かしながら協力し地域完結型医療体制を目指す必要があります。病診、病病、診診連携がこれからの地域医療を担っていく必要があります。顔の見える医療が大事です。地域医療クリティカルパスが一つのツールになると考えています。

沖縄が基地経済や公共工事に頼らずに自立していくためにはいかに観光客を増やしていくかにかかっています。日本医師会は「医療ツーリズム」は世界に冠たる医療制度を壊すものだとして反対をしています。沖縄県医師会としては日本の文化ともいえる医療制度が破壊されない範囲で外国の観光客が沖縄を訪問する環境を整えるのに最大限の協力をしていきたいと思います。

TPPで混合診療の全面解禁や医療保険に対する介入が明らかになれば国民医療を守る立場から反対の運動を展開していく必要があります。東日本大震災を受けて危機管理が問われています。支援を頂いた方々に感謝致しますとともに提言に基づいて早急に体制を整えて行きます。

沖縄県には救急医療、離島医療、産婦人科等の医師不足・偏在、長寿日本一復活等まだまだ多くの課題が解決されずに問題点として残されています。それぞれの課題は一朝一夕に解決は出来ませんが沖縄県医師会が中心となって総ての医療人が心をひとつにして力を合わせなければ困難は乗り切れないと思います。今まで以上に会員の先生方のご指導ご鞭撻の程よろしくお願いを申しあげます。

新しい年度の沖縄県医師会執行部のあり方

副会長　玉城　信光

副会長に就任し6年の経過を振り返り、今年の活動を考えてみます。

この間活動したことは沖縄の臨床研修の相互乗り入れの実現を頭に描いてきました。県立病院の優れた面、琉大の専門性を生かした研修、応用の効く民間病院での診療、沖縄で研修をする研修医、専門医になろうとするものにどのようなメリットを提供できるのか。

いよいよそれらが完成しそうな状況が生まれてきました。4月オープンする“おきなわクリニカルシミュレーションセンター”を中心にしながら、3つの研修群の連携ができてきました。あとは施設長と事務方の調整を残すのみになります。また、協同で臨床研修医確保対策合同説明会に参加することにもなりました。オール沖縄で研修医を勧誘し育てていこうとする動きです。県内すべての研修病院が参加します。会員の応援をお願いします。若い人々が集うということは医療が沖縄県が活性化することなのです。

政策参与になり5年が経過しました。最初に知事が話されたことは「このままでは県立病院がだめになる。どうにかならないか」という諮問のようなことでした。知事、副知事、病院事業局長、福祉保健部長、知事公室長と私の話が何度かもたれました。私の答えはただ一つでした。「簡単ですよ。病院職員の意識が変わればすぐにできます。」の一言です。ただ、誰がどのように変えるのか？これが大きな問題です。しかし、これも簡単なことです。病院の職員＝当事者が自分の病院はどのようにしたら働きやすい病院にできるのか、自分の病院の抱えている矛盾は何か、当事者以外に答えはでません。外圧で変えられるものではありません。自分たちを被害者の立場においたのでは解決しないのです。85億円の繰入金を3年間いれたら県立病院の経営が健全化してきました。今年は県立病院の今後の姿を見据えた改革に取り組む重要な年です。県公務員の先生方を応援しますので素晴らしい県立病院の第一歩を踏み出してほしいものです。

今年は復帰41年目に入ります。沖縄が自立する姿を創っていかなければなりません。県医師会は医療を通じた沖縄の未来像を描いてきました。新しい沖縄振興策にも各種の提言をしてきました。シミュレーション医療を通じた産業の育成（沖縄版シミュレーターの開発、アジア各国からシミュレーション教育のための人材交流、離島からセンターにアクセスし手術のシミュレーションをする遠隔医療）。重粒子線治療施設の設立（アジアの国々と連携し重粒子線治療が沖縄で受けられること、重粒子線治療関連の人材育成センター、重粒子線開発研究所）人材交流＝万国津梁は沖縄の伝統です。国の行政機関、県外の団体、沖縄の動きも、もう一息のところまできました。あと一押しです。

今年は大学院大学が開学します。バイオ関係の先端の大学院が沖縄にできるのです。大学の周りに種々の研究所が設立されてくるでしょう。沖縄県には最先端の遺伝子解析装置（ギガシーケンサー）が10台あるようです。ゲノムコホート研究のメッカになる可能性があります。夢のような癌の治療薬ができるかもしれません。それらを治験するためのネットワーク作りもできました。沖縄県医師会の中に治験センターが設立され、糖尿病の新薬100例の治験が完成しました。現在COPDと精神科薬の治験

が進行中です。医師会を通じた治験は会員のメリットにもなりますし、製薬メーカーにとっても症例を多く登録できるメリットがあるのです。治験・臨床研究を推進することは医療のレベルを向上するとともに安心・安全な医療にもつながるのです。

地域医療の分野で置き去りにされているものがあります。産婦人科医師をはじめとする人材の不足と地域医療を供給する体制の未熟があります。今年は沖縄の医療のグランドデザインを考える委員会で、どのようにしたら地域医療を守れるのか、北部地域の問題と宮古・八重山地域の問題を考えていきたいと思います。

また昨年の大震災から学んだことを基礎に災害対策として、「災害医療支援にかかるワーキンググループ」より提言された「沖縄県医師会災害救助医療班派遣要領草案」を基に委員会を設立し、備品整備など具体的に実効ある計画を立てていきます。

医師会に求められているのは会員のための事業を推進発展させることと、地域の医療を確保し住民の健康、安全を守ることだと思います。そのためには事務局の能力の向上も必要になります。優秀な人材が集まっているのですが、残念ながら新しい事業に対する、シンクタンク的分析、事業計画立案に関してまだ足りない部分があります。今年はこのようなことを念頭におきながら会員のために仕事をしていきたいと思います。

7期目に心を新たにし

副会長　安里　哲好

この度、宮城信雄会長と中部地区医師会の推薦で副会長に就任いたしました。どうぞよろしくお願いいたします。宮城会長を支える役目と共に、中部地区医師会の会長を2期4年務め多くの勉強と貴重な経験をさせていただいた事を基軸に、地区医師会との更に密なる連携の懸け橋の役割をと考えています。各地区医師会において、地区を超えた諸検討課題等がありましたら、ご連絡いただけたら幸いです。また、福祉保健部との連絡協議会の窓口も担っており、各地区医師会からのご提言は適宜、その協議会に提案し検討して行きたいと思います。

これまで6期12年医師会活動を務め、今年度で7期目となります。医師国保と産業医担当、労災部会から始まり、医師会医学会・生涯学習、勤務医部会、地域医療臨床研修委員会の立ち上げ、女性医師部会立ち上げとの関わり、臨床研究・治験委員会の立ち上げ、脳卒中医療連携の立ち上げ、地域医療委員会の担当と情報システム関連、そして総務に関わる副担当等に関わらせていただき、医師会会務の多種多様な経験をさせていただきました。

今、1つの事業を進め、今年度からもう1つの事業を開始しまナ。1つの事業は、地城医療再生基金からの補助を受け、平成22年の末から実施している生活習慣病IT地域医療連携（脳卒中、糖尿病、急性心筋梗塞等：地城医療連携体制総合調整事業）です。脳卒中は急性期・回復期・維持期とパスができ動いており、近日中にIT化し、また、現在の南部・中部医療圏より北部医療圏に広げる予定です。また、那覇市・名護市での市民公開講座を開き、両方で900人余の市民の参加を頂き、75件の質問を受け、内容が解りやすく楽しい講座でそれでいて、熱気のあるシンポジウムが行われました。今年は、その延長上に、新聞社と共同で脳卒中の急性期の医療連携を中心に県民公開講座を開く予定です。糖尿病の地域連携は4月より、中部・北部医療圏において、紙ベースで進める予定で、IT化も同時に進んでいます。時代より一歩先の経験として、会員の方々の積極的参加を切に希望いたします。新年度からのもう1つは、沖縄県総合保健指導支援・疾患管理センターの事業です。それは生活習慣病IT地域医療速携との両輪です。前者は生活習慣病の薬物等による治療、合併症の予防や合併症の進展・増悪の阻止が中心的役割です。一方、新しい事業は生活習慣病の予防、予備群の疾病への進行の阻止、早期発見と薬物療法によらない生活改善、そして重症度を早い時期に階層化による評価をし、医療機関受診を積極的に・半強制的に勧奨して行くのが趣旨です。その他、特定保健指導マニュアルの簡素化、保健指導の単位のコンピューター化、データベースの統一化（できれば、糖尿病・脳卒中・急性心筋梗塞と同じID）と管理・分析等です。全県を年齢（35歳～64歳を対象に）別入口と特定健診で得られたデータを基に疾患別階層化の元にマッピングする予定です。現状把握に終わらないよう、県民の健康に寄与できるアウトカムを出したいものです。それにしても、時間がありません。2年間の時間しか与えられていません。各地区医師会、会員の皆さん、市町村行政の保健師の方々、看護協会の方々、栄養士・運動療養士等の方々のご協力をよろしくお願いいたします。

新しい年度に、心を新たにしています。今年度は「沖縄県保健医療計画」を策定する年度になっています。各地区医師会、委員の方々、会員の方々のご協力をぜひ頂きたいと存じます。

就任挨拶

理事　真栄田　篤彦

平成24年度の沖縄県医師会常任理事を就任することになりました。

当会の総務担当理事として会務運営に万全を尽くしてまいりますので、なにとぞ宜しくご指導・ご鞭撻くださいますようにお願い申し上げます。

昨年度は東日本大震災の発生に関して、当会正副会長がイニシアチブをとり被災地への直接支援としての医療チームの派遣、義援金の造成およびご寄付と貢献できました。これもひとえに県医師会員の一致団結した心ある支援が行動に移されたものと思います。

被災後一年経過しておりますが、まだまだ支援が必要とされていますし、当会でも支援していくと思いますが、これまでの総務担当理事としても感謝とお願いを申し上げます。

さて、当会は平成24年4月1日から新法人への移行初年度としてのスタートをします。非営利を徹底した一般社団法人化として3月に沖縄県から承認されました。今後は、毎週開催の理事会にも監事も参加します。会計報告や種々の会務運営も県庁への報告等これまで以上に必要とし、経理・総務担当事務局は多忙になります。会員の先生方におかれましては、今後も当会の会務運営にご理解・ご協力をお願い申し上げます。

ご挨拶

理事　稲田　隆司

宮城執行部、4期目の理事を拝命いたしました。3期目から常任理事を拝命し、平成12年の理事から数えますと通年12年になります。

医事紛争、医療安全、医療倫理を担当し、どちらかといえば内部のガバナンスに主として関わってきました。

交代のシステムをと言うことで、前期は各地区医師会に担当理事の体制を作って頂き、徐々にではありますが、医師会の危機管理体制は強化されつつあります。今期はその体制をより円滑なものにしつつ、日医の医事紛争処理体制の改革に連動した改変に尽力したいと考えております。

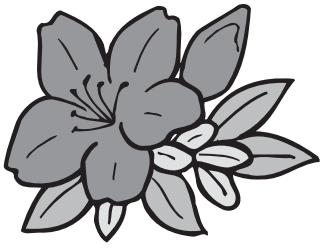
To Error is Humanといわれるように医療は不確実で、一定の確率で医療事故は発生します。その現状を、患者さん、御家族に説明しつつ、医療関係者の状況も伝え対応しつつ、業務に努めたいと存じます。

日本医師会はより患者さんの御意見を反映した医事紛争処理、制度設計を行う流れのようですが、沖縄県医師会においても更に、患者さん、御家族のご意見、御要望を取り入れた過不足のない紛争処理体制をつくるべく工夫・改善を図っていきたいと考えております。

医療安全は、全国共同行動と歩調を合わせ、医療倫理は、県下に生じた事例の詳細な検討を行うなど試みていきたいと存じます。

紛争、倫理を語るガラではありませんが、努力致します。

宜しくお願い申し上げます。



理事就任ご挨拶

理事　金城　忠雄

宮城信雄会長の下に、南部地区医師会の推薦を受け、引き続き4期目の理事を務めることになりました。よろしくお願い致します。

医師会活動は、医療医政関連を始めとして多種多様な活動範囲が広汎で、責任の重さを自覚させられてきました。

毎週火曜日、多岐にわたる理事会の議題は、午後7時30分から2時間にも及びます。東京や九州各県への出張も多く、活動範囲の広さには驚くばかりです。

私はこれまで、産業保健・産業医関連と労災・自賠責保険等のほかに産婦人科の代表としても任務のひとつとして携わってまいりました。

産業医活動には、労働者のメンタルヘルス対策があります。日本全国で自殺者が3万人以上にもおよび、労働環境の改善指導、過重労働やメンタルヘルス対策などに厚生労働省はかなりの力を注いでいます。

沖縄労働局からは、看護師等の「雇用の質」の向上に関する企画委員会の提案があります。病院管理者は、看護師の夜勤対策や労働時間管理を徹底して欲しいとの提案です。医師会としては、看護師の過重労働はすべからく看護師不足が原因なので看護師養成を積極的に行うべきと反論しています。看護学校入試倍率は高いのです。看護専門教師の不足も依然として解決すべき課題です。

産婦人科医代表の懸案事項として、母体保護法指定医師審査権の問題がありました。法律には、公益法人たる医師会が指定するとありましたが、日医本部の精力的な活動により、沖縄県医師会のような一般社団法人にも指定権を与えると法律が改正され、安堵しているところです。

産婦人科は、平成18年福島県立病院産婦人科医逮捕以来、訴訟リスクと過酷な勤務条件も重なり希望者が少なくなっています。沖縄県には、研修医が中部病院ブランドを呼び水に毎年140人前後集まるのに、県立北部病院や離島の宮古・八重山病院の産婦人科医の維持補充には苦労しています。医学生や若い研修医が、産婦人科を専攻するよう工夫と努力をしたいものです。

玉城信光副会長は、県の政策参与として地域医療再生基金を活用し産婦人科医の充実に真剣に取り組んでおりますが道半ばです。

医師会員先生方のご協力をたまわり、心機一転新たな気持でこれから2年間の任務を全うしたいと思っているところです。ご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

理事就任にあたって

理事　宮里　善次

この度学校保健及び感染症・予防接種担当理事として留任することになりました。今回で3期目となりますが、今後も宮城会長を支え、一生懸命任務に専念する所存です。

さて、新型インフルエンザの流行は大阪・兵庫から始まりましたが、本格的な全県的流行は沖縄県から始まりました。

また残念なことに最初の死亡例報告も当県からでした。当時来沖中であった厚生大臣が発表する形で、全国的に報道されましたので、ご記憶に新しいと思います。

事前準備していたとは云え、流行の初期においては様々な厳しい状況下にありました。しかしながら当県は当時の宮里達也統括監（前保健福祉部長）を実務トップに、糸数班長が率先して、県医師会や関係機関と密接な連絡を取り合い、沖縄方式と言われる診療連携システムを作り上げ、最終的にもっとも死亡例が少ない県となったのです。

当時感染症担当理事として対応にあたってきましたが、各地区医師会及び会員の先生方が診療やシステム作りに快く協力して頂いたことに改めて感謝申し上げます。

後に流行が続いた各県から沖縄県や県医師会に多くの問い合わせがあったと伺っておりますし、日本医師会の総括においても発表の機会を与えて頂きました。

また担当は違いますが、東北の大震災時の県医師会と会員の皆様の素早い支援の動きに対して大きな感銘を受けました。

自然災害や新たな感染症流行はないことに越したことはありませんが、緩やかなようでいて、いざと云う時の医師会の結束力を実感した2年間でした。と同時に、県医師会事務局の優秀さを実感した2年間でもありました。

再来年度は沖縄県において、九州学校保健・学校医大会が開催されます。

担当理事として、宮城会長をしっかりバックアップして成功に導きたいと思います。

会員の先生方のご協力を、よろしくお願い申し上げます。

理事就任挨拶

理事　佐久本　嗣夫

この度、県医師会理事として引き続き二期目を務めることになりました。私は数ある医師会事業の中で医療情報システム対策事業、看護士養成対策事業、医療従事者対策事業、会員及び従業員の福祉共済事業等を担当しています。一期目は全く不慣れな状態で周囲関係者の皆様にお世話になりつつなんとか職務をこなしてきました。二期目となる現在は私の職務を始め県医師会事業の全体像が見えてきた気がします。さて昨年は波乱万丈、不安定な行政の中でさらに追い打ちをかけるように東日本大震災、津波、原発事故と国難続きとなりました。医療界も今回の診療報酬改定ではなんとかマイナス改訂は免れたものの依然厳しい状況は続きます。しかし沖縄県では他県に比べて良い面もあり看護士養成学校の充足率は良好で永年勤続医療従事者もほぼ毎年増加傾向にあります。県内地域による医師不足や看護士不足はありますが医療に従事している人、今後そうしたいと考える人はまだまだ大勢いるということです。私は県医師会理事の一員としてこのような厳しい医療環境の中でも医療従事者の皆さんが県民へ質の良い医療を提供できるよう、また沖縄県が医療従事者の皆さんにとって働きがいのある地域、環境になるよう微力ながらお役に立てればと思います。さて昨年から医療情報システム対策事業の一環として県医師会文書映像データ管理システムが稼働開始しています。これは県医師会員であれば誰でもインターネット上、県医師会ホームページより医師会関連文書や講演会映像等を閲覧できるシステムです。閲覧にはアカウントやパスワードが必要です。事前に連絡済みではありますが、お忘れの方は県医師会事務局へお問い合わせください。配信データはまだまだ少ない状況ですが、どうぞ積極的にご利用いただきたいと思います。二期目の理事就任にあたり自分のクリニック、職員を守りつつさらに可能なかぎり医師会活動にも尽力して行きたいと思います。これからも会員の皆様、その他関係者の皆様のご指導、ご協力をよろしくお願い致します。

沖縄県医師会理事就任に当たり

理事　本竹　秀光

私はこの度の沖縄県医師会役員改正において理事に立候補し、当選をさせていただきました。推薦をしていただきました県立中部病院院長宮城良充先生を始め、会員の皆様方に熱く御礼を申し上げます。私は平成21年6月から沖縄県公務員医師会会長を務めさせていただいております。沖縄県立病院事業は皆様もご周知のように平成18年度から平成19年度にかけ、損益収支の急激な悪化に伴い約100億円の資金不足を抱え、極めて危機的な経営状況にありました。これに対して平成21年度から平成23年度までの3年間を経営再建期間と位置づけ、不良債務の解消、資金不足の解消、経常収支の黒字化の3つを目標に掲げました。結果は国の公立病院特例債の活用、一般会計からの支援強化、病院現場の経営努力で、先の3つの目標は一年前倒しで平成22年度には達成することができました。この中で、特筆すべきはこれまでにない病院現場の経営に関する意識の変化でした。我々現場の職員は24時間365日県民の医療に努力しているのにどうして赤字になるのか、共通した疑問を抱いていました。我々公務員医師会は経営を事業局に任せ、現場の一人一人が経営にあまり関心を持ってこなかったことが大きな原因の一つと考え、経営に関する勉強会を公務員医師会理事と各県立病院管理者（院長、副院長、医療部長）との間で始めました。その結果、病院経営についての意識は現場に広がり、経営努力となって先の目標の早期達成につながったと考えています。沖縄県立病院は県民に安心・安全の医療を安定して提供していくために更なる改善に努めているところです。

戦後の沖縄の医療は県立病院が中心となって県民に医療を提供してまいりました。この間、医学部が開設され、医学部の学生が卒業し、沖縄県で働く医者も増加し、医師不足も過去の話となりました。私立の総合病院も増加しました。医療レベルも本土に比肩するまでに達しました。これもひとえに諸先輩医師たちの努力のたまものと思います。現在沖縄県は全国でも初期臨床研修医が集まる県として有名になりましたが、しかし、後期研修医や若手医師の沖縄県への定着に関しては必ずしも楽観はできません。最近県立病院でも若い先生方が離職しキャリアアップのために本土に出ていくケースが増えてきています。その原因の一つは中規模の病院が増加したため、症例が分散し短期間で十分な経験がつめないことなども考えられます。沖縄県の次世代を担う先生方のキャリアアップを図り、沖縄県の医療をリードする若きリーダーたちを早急に育成する必要があります。私は与えられた2年間の中でそれぞれの地区医師会の先生方と連携をとりながら次世代の人材育成のhow toを考え、実現していきたいと考えています。県医師会会員の皆様方のご指導、ご鞭撻を宜しくお願い致します。

沖縄県医師会理事再任挨拶

理事　村山　貞之

このたび、沖縄県医師会の理事に再任されました村山貞之と申します。琉大病院長に就任しまして、1年が経とうとしておりますが、昨年6月から理事を仰せつかっております。

私の理事としての勤めは、学術担当が中心であります。昨年は12月に行われた沖縄県医師会医学会総会の主催が大きな仕事の一つでありました。副学会長として、会長の名嘉村　博先生をサポートし、プログラムの立案などに尽力しました。特に今回から新たに始まった沖縄県医師会医学賞（研修医部門）については事前に多数の方々からいただいたご意見を反映させながら、初期研修医2年目の方を対象とし、医師会医学会でのポスター発表を中心に選考する運びとなり、当日行われました。発表された各研修病院の先生方は、立派にプレゼンテーションを行われ、実りある講演会になったと思います。今後も、引き続き行われることが決まりましたので、医師会医学会自体の活性化にも繋がることでもあり、期待したいと思います。また、当会の改革案も色々と出されていますので、名嘉村会長、田名副会長共々、頑張っていきたいと思っています。

もう一つの大きな担当は、臨床研修であります。臨床研修実務者会議などを開き、諸問題に対応してきています。今年度の大きなイベントは、臨床研修医確保対策合同説明会参加モデル事業（平成24年度～平成25年度）として、県医師会に県から配分された資金による事業について、しっかり成果を出すことが挙げられます。具体的には全国規模で行われている学生・研修医に対する研修病院の勧誘説明会に、個々の県内臨床研修指定病院病院レベルだけではなくて、沖縄ブースを作り、みんなで沖縄での研修をアピールしようという試みです。沖縄県は地方の他県に比べて、県外からの多数の初期研修希望者がいることで評判でしたが、現状では約140名の定員に対して20人ほどマッチしていません。やや陰りが出てきている沖縄県での研修を、さらには後期・専門研修者も増えるようにアピールしていく予定で、現在ワーキンググループが作戦を練っています。

臨床研修に関連していますが、琉球大学医学部の敷地内にできる全国一の規模の医療シミュレーションセンターの運営に医師会理事として関与することも担当であります。もちろん、琉大病院の病院長としても非常に楽しみであり、大きな事業と思っているわけですが、この施設はオール沖縄の施設で県の補助金で建設・運営されることから、医師会としても大きなバックアップを行う所存であります。4月15日には、全県の1年目初期研修医を集めて、初歩的な医療技術のシミュレーション教育を行うことが決まっており、全県の専門家たちと、その打ち合わせも行ってきています。

その他、地域医療に関することや、県内で行われる学術的な行事などに関わっていく予定です。任期中これらのことに邁進していくつもりですので、ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願いします。

県医師会：理事就任のご挨拶

～「班会議」の活性化を！～

理事　照屋　勉

南部地区医師会よりご推薦頂き、2期目の理事を拝命いたしました「てるや整形外科」の照屋と申します。主に「医師国保」と「広報」を担当いたしております。小生的個人的見解として、沖縄県医師会の【課題・問題点】および【今後の展望】を考えてみました。

【課題・問題点】として、(1) 学校医・産業医・介護保険2次審査会・地域イベントへのメディカルサポート・予防接種事業などに関する諸問題！～時間的制約・報酬・労災補償・医師賠償責任・事務的対応etc…。まだまだ十分とはいえない行政サイドへの要請・陳情・アプローチが重要なポイントと思われます。(2) 保険医療機関における診療報酬請求業務に関する諸問題！～社保・国保両審査会で合議を得たものに関して「保険診療の留意事項（Q＆A)」として情報提供されております。是非、ご一読頂きたいと思います。(3) 医事紛争処理に関する諸問題！～沖縄県医師会には、各分野の専門医と顧問弁護士で構成する「医事紛争処理委員会」、争訟事案に迅速に対応する「サポート委員会」があり、会員の負担を医療・司法の両面からサポートできる体制が出来上がっております。精神的にも肉体的にも、本当に“拠所（よりどころ)”となる素晴らしいシステムだと思います。

【今後の展望】として、(1)「広報活動（対内＋対外)」～会員向け毎月発行の「会報誌」の充実、新聞などへの「メディカルエッセー」の継続、「マスコミとの懇談会（年4回開催)」・「県民公開講座（沖縄タイムス社との合同開催)」・「県民健康フォーラム（琉球新報社との合同開催)」・「医療に関する県民との懇談会（年1回開催)」・各部会主催による「講演会・研修会」の継続etc…。「継続は力！」ですが、継続していくのは「至難の業！」と痛感しております。(2)「人財育成」～復帰40周年を迎える沖縄県において、「人材」・「人在」・「人罪」ではない「人財」の育成が急務と思われます。特筆すべきは、医師・歯科医師・薬剤師・看護師・PT・OT・ST・放射線技師・臨床検査技師などの職種を超えた、医学部・工学部・理学部などの学部を超えた「おきなわクリニカルシミュレーションセンター」の開設・始動…。これは沖縄県の医療界全体が待ち望んでいた朗報と思われます。また、「オール沖縄～赤瓦プロジェクト～」が「臨床研修医確保対策」として立ち上げられました。海外との交流も盛んな沖縄で、「RyuMIC群」・「県立病院群」・「群星沖縄群」が互いに切磋琢磨し、救急医療・離島医療・プライマリ・ケアを学ぶ最適な環境の中で、充実した初期・後期研修プログラムをこなし、素晴らしい「人財」が育っていく…。沖縄から、全国へ、全世界へ…。「夢」が叶うか否か、まさにこれからが正念場です。(3)「ネットワークの構築」～大規模災害時の連携、離島医療・小児救急医療の連携、GP（G：一般医、P：精神科医）ネットワーク、全県的な『DM』ネットワーク、『脳卒中』・『がん』・『臓器移植』・『緩和ケアー・在宅医療』ネットワーク、『メタボ対策』（内科医）と『ロコモ対策』（整形外科医）の啓蒙、学校医・産業医・かかりつけ医・民生委員・社会福祉協議会・婦人会・老人会などとの連携、PTCA（Parent：家庭教育＋Teacher：学校教育＋Community：地域教育＋Association：連合・連携・共同体）の確立、そして、さらなる病病・病診・診診連携etc…。

最後に、上記の「広報活動」・「人財育成」・「ネットワークの構築」に際し、「日本医師会・県医師会・地区医師会」のミニマムユニットである「班会議」の活用が最も有効と考えます。A・B・C会員との連携、地域・行政との連携、情報交換・意見交換etc…。今後とも、「班会議」へのご参加・「会報誌」へのご投稿、「人財育成」・「ネットワークの構築」へのご支援・ご協力を、切に切にゆたしくゆたしくお願い申し上げます。

医食農動同源で病気にならない生活習慣を

理事　石川　清和

新しく理事に就任した北部地区医師会副会長の石川です。1960年、今帰仁村生まれ北山高校出身、大学・研修の10年間を除き、52年の人生の42年間を北部で過ごしてきました。15歳で医者になろうと志した最大の理由は医師不足でした。全国的に問題となっている医師の局在による地域的な医師不足が、北部地区にも押し寄せ、北部地区の医療は崩壊の危機にあります。北部の医療の問題は、医師不足だけでなく、生活習慣病の蔓延、高齢化社会、教育問題、経済問題等が複雑に絡み合っています。そのため、北部の医療の問題解決には医療界、行政、経済界との連携だけではなく、地域住民が北部の医療と向き合い、問題解決に取り組んでいく必要があります。また、北部地域は沖縄本島の約60％の面積の中に沖縄の人口の10％未満が住む、過疎地域でありそのことも北部の医療を考えるときに配慮しなければなりません。さらに、健康長寿を再生するためには、医療の高度化、医療の充実のみでなく医食農動同源を中心とした病気にならない生活習慣作りに取り組むことも重要な事だと考えます。

2002年の26ショックでは特に若い世代の男性の健康状態が危機的であると報告されました。心疾患、脳血管疾患別の死亡率では35～65歳の多くの年齢層が上位に入り、アルコール性、あるいは肥満による脂肪肝が押し上げていると考えられる肝疾患による死亡率は全国で最も悪い状態でした。さらに、2010年の死亡統計でも沖縄の肝疾患による死亡率は男性1位、女性2位でした。沖縄県のA高校の2009年と2011年の高校1年生と3年生の特定健診と同じ項目の検査を行った結果、高血圧症が20～30％、高脂質血症、糖代謝異常、高尿酸血症が約20％、肝機能異常が約10％にみられました。若い世代でも生活習慣、特に食習慣の乱れによって代謝異常が起こり、糖尿病、高血圧症、さらには心疾患、脳血管疾患、肝硬変症の予備軍となっていることが危惧されます。

何故変われないのか？情報化社会の現代の生活の中で、私達は様々な情報の洪水によって溺れかかっています。偏った知識や全く知らない事（無知）、健康についての情報は持っていても行動しない事（無為）、テレビや雑誌、インターネットで得られる多くの情報、行動半径が広がった忙しい生活の中で家族・友人・知人へ十分な関心を払わなくなっている事（無関心）が、現在の沖縄の健康長寿再生の大きな障害となっています。20世紀の戦後の沖縄は字や市町村などの地域社会と公衆衛生看護師、医師不足の中で最大の努力をした先人医師等の活躍によって健康長寿を達成しました。地域社会の結びつきが緩やかになり、家族関係でさえ希薄化している21世紀においては、趣味、スポーツ、ボランティア等の新しい結びつきによる行動半径の広い、新たなソーシャルネットワークを活用した健康づくりが求められていると考えます。

持続可能な沖縄を作るために、北部地域の住民だけでなく自然、環境にも配慮した新しい生活習慣作りを目指していく必要があります。60歳になるまでは耳従わざる事があるかもしれませんが、皆様のご指導ご鞭撻をよろしくお願いします。

沖縄県医師会新執行部就任挨拶

理事　玉井　修

宮城信雄会長のもと、4期目の理事を拝命することとなりました。1期目に関わっていた仕事は主に対外広報に関する事だけでしたが、2期目からはこれに特定健診集合契約の締結と特定健診の円滑な運用に関わる仕事が加わりました。全国にも類を見ない全島統一単価、統一内容の集合契約を沖縄県で締結する事は、島しょ県である沖縄においては何としても守り抜かなければならないものです。これを特定健診の実施初年度から5年間守り続けてこられたのは、国保連合会や被用者保険との密接な意見交換を行いつつ、各地区医師会や健診医療機関との信頼関係の蓄積があればこそなのです。県民に対して利便性とクオリティの高い特定健診を提供しつつ、市町村の負担を出来るだけ軽減し、受診率向上の為に協力しやすい環境を整えるため今後も特定健診集合契約は守り抜かなければなりません。また、もうすぐ2年目を迎える＃8000（小児電話救急相談事業）は、現在の午後7時から午後11まで1回線のみでの運用では30件程度の相談に応じるのが限度であり、1時間電話しても繋がらないなどの不満が寄せられております。これに対応するにはマンパワー不足が足かせになり、回線を増やすなどといった対策を講じるのはまだまだ調整が必要です。今後も＃8000事業に対する会員のご協力をよろしくお願い申し上げます。

昨年3月11日に発生した東日本大震災のおりには、震災直後から岩手県大槌町に医療支援を行うなど、沖縄県医師会の救急医療に対する対応は素晴らしいものがありました。今後地域防災計画の見直しが行われる予定であり、沖縄県医師会は積極的な発言を求められております。震災現場に直接赴き、医療支援を行ってきた者としてしっかり発言していきたいと思っております。

対外広報活動に関しては、来年度から広報委員会と一体化し、より効率的な運用を目指しており、県民公開講座、県民健康フォーラム、県民との懇談会、マスコミとの懇談会は例年通りの開催を計画しております。また、大規模災害を想定した県民救急フォーラムの開催も計画しております。特定健診に関しては今年度より地域医療再生関連予算を利用して円滑な特定保健指導を行えるようなシステム作りを考えており、特定保健指導推進センター事業（仮）を発足させて、会員施設でも無理なく円滑に特定保健指導が実施できる環境を整備していきたいと考えております。

ついでではございますが、昨年医師協同組合で作成いたしました『かりゆし調白衣』は如何だったでしょうか？このアイディアはとある飲み屋さんで思いついたものでした。デザインは母校でもある首里高校の染色デザイン科の高校生に依頼しました。発想から1年をかけてようやく実現した『かりゆし調白衣』は今後の評判が良いようでしたら第二弾、第三弾と手がけていこうと思っております。臨床現場においても、また、学会や講演会のお土産品としてもご利用になれます。なにとぞよろしくお願いいたします。

沖縄県医師会　理事就任のご挨拶

理事　比嘉　靖

この度、安里哲好前中部地区医師会長からの推薦を受け県医師会理事を拝命いたしました比嘉靖と申します。よろしくお願いいたします。沖縄市にて「東部クリニック」を開業しております。これまで中部地区医師会理事として、広報、学術担当を担当し、県医師会へは広報委員会として参加させて頂いておりました。未だ十分な働きをなさない内の移動ですのでやり残した感はありますが、先生方の御理解、後押しも有り御指名をお受けさせていただくこととしました。

昨年度は東日本大震災があり、改めて医療活動についていろいろと考えさせられる一年でした。災害発生により始めて明らかになる問題点が数多くありました。しかし、一方では沖縄県医師会も積極的に参加した災害救援活動、医療支援活動では、既存の医療システムのもつ力も強く感じることもできました。今後はその力をより一層高めて行く必要があると思います。個々の医師としての精進・努力も大切ですが、医療人である医師の立場から社会システムへアプローチする際には個人の力に増してMass・団体としての力が必要であると考えます。この効果は平常時には適切な診療活動を行うための環境づくりにも発揮されるもので、医師会のあるべき姿の一つであると思います。しかし、実際の診療の現場では、医師は医療技術の進歩、多様化する医薬品などの膨大な情報への対応におわれているのが現状です。さらに本年度は大震災後初の診療報酬改定もあり、これにも対応して行くことが必要とされます。

最近では生活苦、老々介護などの問題から十分なサービスを受けられない医療・生活難民の孤独死のニュースをよく耳にすることが多くなり、一方、医師会のなかでも地域医療に対する医師の意識の変化の影響なのか、学校医/予防接種などへの参加拒否などの諸問題もおこっています。このような状況の変化に、本来の純粋な医療活動が左右されているのです。

我々、医師会執行部の使命は、これら諸問題を事前に把握、処理することで、会員の皆様の本来の診療活動の環境を守ることと考えております。少しでもこの使命を全うできるよう微力ではありますが、県民の健康を支える会員の先生方の診療環境の充実を私の医師会理事としての目標として頑張りたいと思いますので、遠慮なく御指導、御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

理事再任のご挨拶

理事　平安　明

浦添市医師会のご推薦をいただき第196回沖縄県医師会臨時代議員会において3期目の理事を拝命いたしました。

平成20年4月に理事に就任後、ひょんなことから医療保険の担当となりましたが、まさか全医療機関向けの診療報酬改定説明会を2回も担当することになるとは夢にも思っていませんでした。かなりのプレッシャーとストレスを感じますが、多くの関係者から励ましと労いの言葉をいただき、「少しは理事として貢献しているのかも」と都合のよい解釈を自分自身に与え、モチベーションを失わないように奮起しながら何とか職責を果たすよう努力しているうちに4年が経っていました。さらに今回再任していただいたことは光栄であると同時に、より一層の役割を果たさなければならないとの思いで一杯です。

医療保険対策事業としては、①保険診療の適正化の推進、②審査業務の適正化、③会内委員会の活用、④主管行政機関・保険者並びに両審査機関との連絡協調、⑤都道府県医師会社会保険担当理事連絡協議会、九州ブロック医療保険対策協議会等への派遣、といったものがありますが、会長はじめ理事の先生方や郡市医師会の担当理事の方々の協力を得ながら、当会事務局保険課のスタッフと共に様々な問題に対処しています。

担当理事として個別指導に立ち会うことが多いため、医療機関の保険診療に対する理解にはかなりの濃淡があることを感じておりますが、患者のためにと真摯に行っている医療行為が、個別指導において算定要件を満たさないとして保険請求のルール上“不適切”と判断されたりすると、侮辱されたと憤慨する先生もいるかと思います。しかし、保険診療には厳然とした「請求のルール」があり、それを遵守することを前提に保険医療機関として認められているということを、私たち医師はもっと重く考えなければいけないのかもしれません。

2期目に意識的に取り組んだ事業として、保険診療の理解を広めるために地区医師会単位で勉強会を行いました。実際のところ医療機関にとっては個別指導でどのような点をチェックされるのかといったことが気になるところだろうと思います。その対策をすることを何か隠ぺい工作をしているかのような見方をする人もいるようですが、全く見当違いです。むしろ「保険診療の適切な理解と運用」のために不可欠なことで、むしろ日頃から積極的に取組むよう行政側も推奨していいのではないかとさえ思います。

診療報酬改定後にはしばらく疑義照会等の対応や種々の問題に対する対応が優先されますが、医療機関間の情報共有、情報交換の場としても地区での勉強会は非常に有意義と感じていますので、今後も積極的に開催していきたいと思っています。

今後ともご指導ご鞭撻の程、よろしくお願い致します。

監事就任のご挨拶

監事　山里　将進

この度、浦添市医師会の推薦により沖縄県医師会の監事に就任させて戴きました山里将進です。県医師会の役員に就任するのは今回が初めてです。宮城信雄会長を始め理事の皆様と協力して県医師会の発展のため微力を尽くしたいと考えております。宜しくお願い致します。

私は昭和44年に福島県立医科大学を卒業し福岡県博多市にある千鳥橋病院で初期研修を行いました。初期研修の半ばでしたが沖縄協同病院の前身の沖縄民主診療所（現那覇民主診療所）の創設に参加しました。5年後に沖縄協同病院を建設しその後は病院と診療所で呼吸器内科の仕事を続けました。専門研修は東京逓信病院、国立相模原病院、築地国立癌センターで肺癌、気管支喘息などをテーマに行いました。呼吸器疾患の診療では宮城征四郎先生や源河圭一郎先生に御指導戴きました。

那覇民主診療では17年所長を務めました。1970年代の初め頃から、障害や認知症を持つ高齢者の医療や介護の問題に関わるようになり、那覇市で訪問看護制度の実現を目指すフィールドワークを行い、地域住民と協同して制度の実現を国に先駆けて那覇市に実現して戴きました。それ以来、在宅医療は私のライフワークになりました。この間、東京葛飾区の社団法人福寿会、福岡クリニックで在宅医療の研鑽を行い、与那原中央病院在宅部を経て現在は浦添市前田で10年前から医療法人五色会、かじまや一クリニックで在宅医療を重点にして診療を続けています。

疾病構造の変化や高齢社会の到来で在宅医療や在宅介護のニーズは増大しています。病院から在宅への政策的誘導もあり在宅医療に携わる医師も増えています。在宅医療の様相も時代と共に様変わりしています。医療技術の面では病棟医療と殆ど同じ水準に近づいています。血液検査、超音波検査、携帯心電図、携帯レントゲン検査も在宅でも可能になっています。緩和ケアの分野でも癌患者や難病患者の緩和ケアが在宅でも可能な時代になっています。内科の医師以外の専門の医師が在宅医療に参加する場面も多くなっています。浦添市医師会では3年前から在宅医療ネットワークを立ち上げ多職種連携のモデル事業にも力を入れています。私も浦添市医師会の理事としてネットワークに関わってきました。今後は県医師会の仕事を通して在宅医療の発展に寄与出来れば幸いです。

日本は現在、医療も福祉も多くの問題を抱えています。国民皆保険制度の崩壊が危惧される状況が進行しています。社会保障と税の一体改革と言いながら医療保険や介護保険の先行きが危ぶまれる状況になっていると思います。生命ど宝は沖縄の黄金言葉と言われています。生命を尊重する方向に流れを変えて行くためにも生命の守り手としての医師のミッションが強く求められているとおもいます。

東北地方で地震、津波、放射能被害からの復興のため医師として奮闘している学友に思いを馳せながら私も県医師会を通じて復興支援を続けたいと考えています。

監事の仕事は不慣れですが責任の重さは充分認識しています。日本医師会員として医の倫理綱領の実践に励む決意です。会員の皆様の御指導、御鞭撻宜しくお願い致します。

沖縄県医師会監事就任のご挨拶

監事　喜久村　徳清

沖縄県医師会が平成24年4月施行を目指している新公益法人制度の監事に、那覇市医師会会長真栄田篤彦先生よりご推挙いただき、去る2月26日の臨時代議員会で正式に選任されました。先輩方もおられる中、私でよいのかと悩みましたが、宮城信雄医師会長から新制度施行後は監事も理事会出席が必要になると伺い、決心したところです。新制度下の職務の詳細はこれから走りながら考えるということになろうかと思います。

私が医師になりたての頃、20代、30代は医師過剰時代と言われ、医師免許更新制、医師定年制が現実問題として真剣に議論されていて、意見を求められたことがあります。一方、過疎地の医師不足に対して行政の長が自らの命を守るために医師探しをしており、医師免許取得間もない医師に多額の給料を準備して東奔西走。「ヒトの命は何ごとにも変えがたい、地球より重い」という言葉が普通に通じる時代でした。

那覇市医師会の理事を拝命していた50代は、医師会活動の三本柱として、「地域医療」、「学術」、「医政（制）」があることを学ばせて頂きました。

県医師会の事業計画には毎年20数項目の活動方針が示されております。各地区医師会との関わりのみならず、県医独自の活動、また、日医や社会との関わりも強く要求され、現代は医師が医療のみに専念できる時代ではなくなっています。最近の地域医療の例では、県立八重山病院の産科医不足の件で、お産は島外でするようにと病院長が記者会見した後、事態は急速に解決に動きました。かつ、また現代は、生命倫理、再生医療、臓器移植、介護保険が施行され、医療機器の進歩も含めて診断、治療法が格段に進歩しており、尊厳死の普及、高福祉高負担制度、少子高齢社会、OECD並みの医療費、TPP問題への対処等、医師会（医師）に求められている課題は少なくありません。加えて、昨年の東日本大震災、原発事故発生後、復興再生には40～50年かかるとされている今、放射線被曝を避けるための労働者不足は深刻で、国民が公平に負担を求められる徴兵制度のようなものがありうる（猪瀬東京都副知事の発言。マイケル・サンデル「究極の選択」、2月18日、NHK放送）との情報もあります。

平成20年、県医師会館が移転、新築され、はつらつとそこで働く事務局の皆さんは頼もしく感じられました。最近の私は代議員として、またふれあい広報委員として出席していました。

医師会活動の一端は県医師会報、ホームページ等でactiveに、speedyに、かつまたdynamicに展開していることがよく解ります。宮城会長をはじめとする執行部、会員諸氏、事務局及び関係各位の弛まぬ御活躍に敬意を表しながら、この組織に属していることを誇らしく思う一方、身の引き締まる思いがいたします。誠実に職務に対応していく所存ですので、どうぞ宜しくお願い致します。